

資金繰りDI値、前回より15.5ポイント悪化

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

平成27年7月～9月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。(今回の回収率75.0%)

- 【主要な表現について】 ○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。
○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合)
※悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲36.1で前回(H27年4月～6月)より6.7ポイント悪化。今回は全業種で悪化となりました。特に前回大幅な改善を示していた小売業が今回は20.9ポイント大幅な悪化。製造業は▲42.9と5期連続の悪化となりました。経営上の問題点としては共通で需要の停滞。サービス業では利用者ニーズの変化への対応の遅れがあげられました。

全産業売上高の推移(表2)：依然としてマイナスですが、前回(H27年4月～6月)より全体で5.8ポイント改善しました。

全産業資金繰りの動向(表3)：資金繰りは前回より15.5ポイント悪化。直近7期の中で最も低い水準となりました。

全産業雇用人員の動向(表5)：前回(H27年1月～3月)のDI値から3.2ポイント悪化。特にサービス業が悪化しています。

